

## 第4回 支店長のわがまち紹介



「郷育立市」を進める風光明媚な日本のメソポタミア

ゴルフ場でのクロスカントリー大会（写真提供：常陸大宮市）

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第4回目は、常陸大宮市です。筑波銀行は、「地域復興支援プロジェクト『あゆみ』」のもと、常陸大宮市、常陸大宮市商工会、常陸大宮市観光協会、JTB関東と平成25年2月に「常陸大宮市の地域振興に関する協定書」を締結し、連携して地域経済の活性化に資する取組みを実施しています。

大宮支店長の武藤哲生が、常陸大宮市副市長 綿引義久氏、政策審議監 皆川修氏、経済建設部商工観光課次長兼商工観光課長 宮崎隆氏にお話を伺いました。

### ○常陸大宮市のご自慢はなんですか。

常陸大宮市は、平成16年10月に大宮町、山方町、美和村、緒川村、御前山村が合併して市制施行し、平成26年10月に10周年を迎えます。

久慈川と那珂川が市内を流れ、森林が約6割を占める山紫水明、風光明媚なまちです。市内には3か所の温泉施設、12か所のゴルフ場があり、市外、県外からも多くの人を訪れます。御前山とふもとの那珂川にかかる那珂川大橋は「関東の嵐山」と呼ばれる景観です。

企業誘致にも取組み、市内の工業団地や工場で製造されるスイミングゴーグルや接木苗等は国内シェアトップクラスの生産量です。

#### 久慈川、那珂川の恵み

那珂川、久慈川にはアユが上ります。それぞれ漁獲量日本一、第二位を誇り、常陸大宮の特産品です。こいのぼりならぬ「あゆのぼり」を作成し、アユをPRしています。

二本の河川の恵みのおかげで、古くから文明が発達し、多数の遺跡が発掘され、「日本のメソポタミア」と自負しています。弥生時代の再葬墓遺



あゆのぼり（写真提供：常陸大宮市）

跡である泉坂下遺跡、小野天神前遺跡からは、遺骨を納めた壺型土器に人面のモチーフを施した「人面付土器」が出土しました。日本最大の高さ77.7cmのものが発掘されたり、1つの遺跡から複数個出土したりと、学術的に大変希少で注目されています。

#### 受け継がれ、守り続けられる伝統

常陸大宮市は、合併前の5つの各町村の特徴、歴史、文化、伝統を大切に受け継ぎ、守ってきました。古くから宿場町として栄えた高部地区の間宮家住宅（国の登録有形文化財指定、明治35年建設）をはじめ、現在も明治から昭和のたたずまいが街並みに残されています。西ノ内和紙、御前山焼き（陶器）、漆の栽培と採取、漆器、西塩子の回



武藤支店長



綿引副市長



皆川政策審議監



宮崎次長兼商工観光課長

り舞台等、日本全国に誇れる伝統工芸があります。

西塩子地区に伝わる農民歌舞伎を上演するための回り舞台は文政3年(1820年)に製作され、平成3年の調査で現存する組立て式の回り舞台で日本最古のものと分かりました。調査結果を受けて、平成6年に保存会が設立され、ふるさとを誇れるものとして回り舞台を復活させ地域再生につなげようという意識が地区に芽生えました。震災による中断を克服し、平成25年10月には5年ぶりに舞台の組立てと公演(10/5～10/26)が行われ、10月19日には、復興を祈念し、福島県の団体の公演が行われました。

#### 郷育立市の取り組み

常陸大宮市の何よりも自慢できる宝物は、無限の可能性を秘めた未来輝く子どもたちです。「郷育立市」を掲げ、生まれ故郷の誇れるものやかけがえのないものから学び、一人ひとりが生まれ故郷で輝くとともに、故郷遠くにあっても故郷を愛し、慈しむことのできる心を醸成する、ひいては生まれ故郷を輝かせ、活性化させることのできる教育を進めるための様々な取り組みを行っています。

#### ○地域振興に関する協定の成果、期待することについてお聞かせください。

協定を締結したことにより実現した取り組みは、水戸ホーリーホックによる少年サッカー教室への参加、ビジネス交流会等筑波銀行主催のイベントへの参加、特産品「ゆずサイダー」の販路拡大、緒川ふれあいの森の一部を「筑波銀行の森」として整備したこと等です。筑波銀行の森の整備は、森林保全推進に寄与し、多くの行員と家族に常陸大宮市を訪れてもらえる効果が期待できます。森を訪問して、特産品を食したり、温泉巡り等で楽しむはずです。

平成25年11月の「るるぶ」の発刊が待たれます。筑波銀行の店頭、東京・埼玉・千葉の地方銀行の店頭、NTTドコモの店舗等に掲示される誘客効

果はかなり大きいと期待しています。

今後は、筑波銀行と行政の様々な施策での連携を一層強化し、6次産業化の推進や農商工連携、観光振興やイメージアップに必要な情報発信強化に係る連携・支援策を期待しています。

#### ○常陸大宮の今後の展望をお話してください

常陸大宮は、来年度市制施行・合併10周年を迎えます。市歌の作成により市民の一体感の醸成を図り、定例記者会見を実施してPRを強化する取り組みを進めます。

残念なことに常陸大宮市の人口は減少しています。これを食い止めるために、既存の資源を磨いてさらに光らせ、それを活用した産業や観光をさらに振興し、交流人口の増加から取り組みます。そして、常陸大宮市の魅力を発信し、働くところ、住環境の整備、インフラの整備を進めて、定住人口増加を目指していきます。

今後の施策の例として、久慈川沿いにはシティセールスを行う場として、飲食施設や加工施設のほか、防災機能を併せ持つ道の駅を整備し、新たな雇用の場の創出や交流人口の増加による地域の活性化につなげていきたい。また、森林を活用した木材バイオマス事業を展開し、温泉施設のボイラー等に活用します。

東日本大震災で受けた被害や、農産物の風評被害は、いまだに大きな影響があります。今後とも、安全・安心なまちづくりを進め、風評被害の影響の打開や、復興に取り組んでいきます。



日本最古の西塩子の回り舞台(写真提供:常陸大宮市)  
(文責:筑波総研株式会社 主任研究員 國安陽子)